

第2章 長浜市の現況

2-1 長浜市の概況（沿革・位置・地勢）

長浜市は、天正年間に羽柴秀吉（のちの豊臣秀吉）が「今浜」を長浜に改名し、小谷城下などの商人たちを集めて、楽市である城下町を作ったのが、現在の長浜の基礎となっています。

昭和18年に長浜町・六荘村・西黒田村・神照村・南郷里村・北郷里村・神田村の1町6村が合併して市制が敷かれ、平成18年に長浜市、浅井町、びわ町の1市2町が合併し、平成22年（2010年）に、長浜市、東浅井郡虎姫町、湖北町、伊香郡高月町、木之本町、余呉町、西浅井町の1市6町が合併し、現在に至っています。



長浜市は、日本一の琵琶湖の東北部に位置し、東西約25km、南北40km、総面積は680.79km²（うち陸地部分は539.48km²）となっています。

北は福井県、東は岐阜県に接しており、周囲は伊吹山系の山々と、ラムサール条約の登録湿地でもある琵琶湖に面しており、中央には琵琶湖に注ぐ姉川や高時川、余呉川等により形成された豊かな湖北平野と水鳥が集う湖岸風景が広がり、県内でも優れた自然景観を有しています。

また、北国街道やこの街道と中山道を結ぶ最短経路であった北国脇往還沿道や、戦国時代を偲ばせる長浜城や小谷城跡、賤ヶ岳、姉川古戦場をはじめ、竹生島の宝厳寺、渡岸寺の国宝十一面観音をはじめとする数多くの観音が祀られる観音の里など、すぐれた歴史的遺産を有しています。

長浜市は、京阪神や中京、北陸の経済圏域の結節点としての位置にあり、京都市や名古屋市からはおよそ60キロメートル圏域、大阪市からはおよそ100キロメートル圏域にあり、市域南北にJR北陸本線が走り、米原駅で東海道新幹線、東海道本線と結節しており、市域北部に位置する近江塩津駅では北陸線から湖西線が分岐し、京都方面と結んでいます。

北陸自動車道、国道8号が南北に貫き、北陸自動車道は米原JCTで名神高速道路と結節しており京阪神方面・中部名古屋方面と結んでおり、広域交通軸としてこれらの経済圏域と利便性高く結びついています。

気候は、日本海型気候に属しており、春から秋にかけては穏やかで過ごしやすい日々が続きますが、冬季は日本海からの季節風が吹きこみ、降雪量が多く市域の一部は豪雪地帯や特別豪雪地帯に指定されています。



長浜城天守閣から豊公園を望む

2-2 長浜市の社会経済状況

(1) 人口動向

①人口

長浜市の人口推移をみると、昭和50年以降増加傾向となっていました、平成22年の国勢調査では、前回調査を下回り、一転減少となっています。

一方、彦根長浜都市計画区域内の人口をみると、昭和50年以降増加傾向となっていますが、近年は増加の幅は小さくなってきています。

表 2-1 人口の推移 (単位: 人)

年次	彦根長浜 都市計画区域	長浜市計	滋賀県
昭和50年	67,805	118,058	985,621
昭和55年	68,900	119,988	1,079,898
昭和60年	69,901	122,393	1,155,844
平成2年	69,716	121,481	1,222,411
平成7年	70,803	122,415	1,287,005
平成12年	73,540	123,862	1,342,832
平成17年	75,321	124,498	1,380,361
平成22年	75,590	124,131	1,410,777

(資料: 国勢調査)

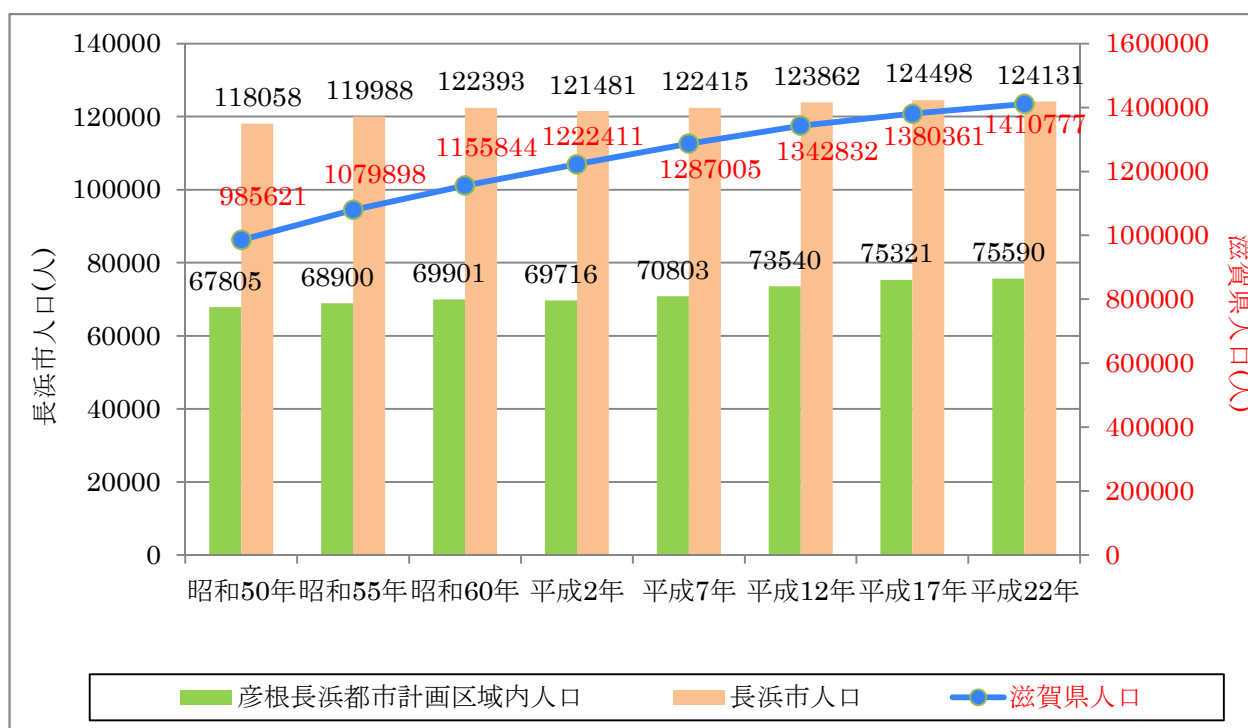


図 2-1 人口の推移

②世帯人員

世帯当たりの人員をみると、長浜市全体、彦根長浜都市計画区域内ともに年々世帯人員の減少が進んでおり、急速な核家族化が進んでいます。

表 2-2 世帯数の推移

(単位:世帯数)

年次	彦根長浜 都市計画区域	長浜市計	滋賀県
昭和50年	17,436	30,006	250,944
昭和55年	18,490	31,316	294,534
昭和60年	19,009	32,499	320,354
平成2年	19,792	33,120	352,364
平成7年	21,466	35,450	394,848
平成12年	23,746	37,987	440,294
平成17年	26,279	40,713	479,217
平成22年	27,638	43,015	517,748

(資料:国勢調査)

表 2-3 世帯あたりの人員の推移

(単位:人/世帯)

年次	彦根長浜 都市計画区域	長浜市計	滋賀県
昭和50年	3.89	3.93	3.93
昭和55年	3.73	3.83	3.67
昭和60年	3.68	3.77	3.61
平成2年	3.52	3.67	3.47
平成7年	3.30	3.45	3.26
平成12年	3.10	3.26	3.05
平成17年	2.87	3.06	2.88
平成22年	2.74	2.89	2.72

(資料:国勢調査結果を基に計算)

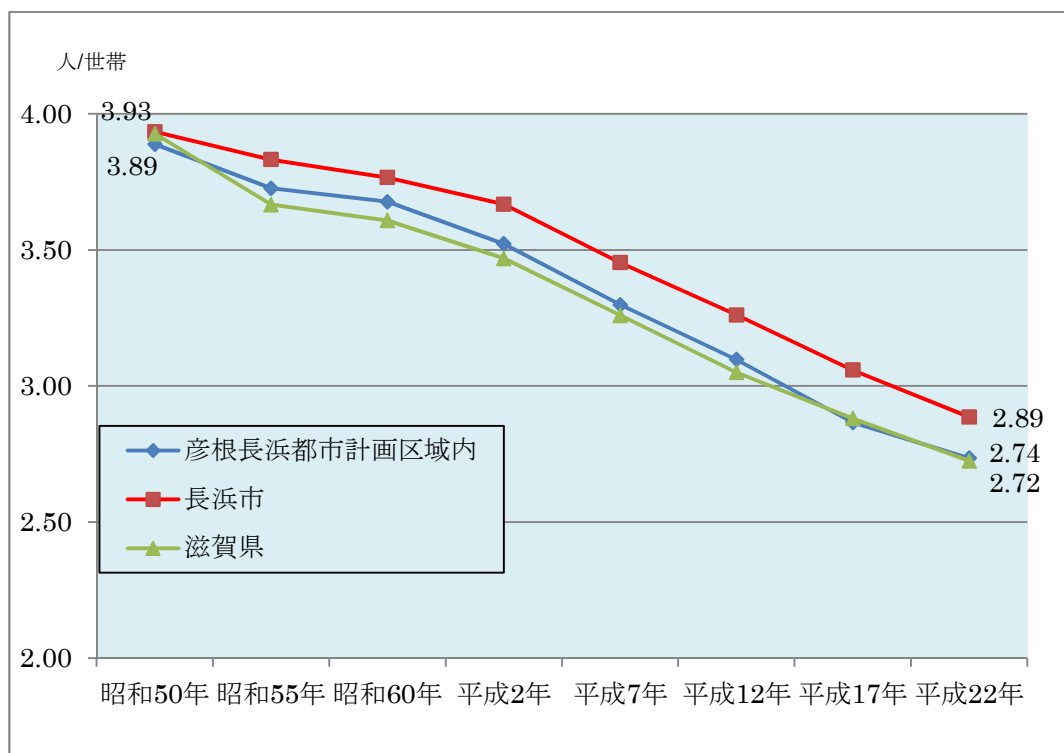


図 2-2 世帯あたりの人員の推移

③年齢層別人口

長浜市の年齢層別人口をみると、65歳以上が占める割合が年々増加傾向にあり、15歳未満が占める割合は、15歳～64歳と共に減少傾向となっています。

特に65歳以上の占める割合の増加率が著しくなっており、長浜市においても急速な高齢化社会が進んでいます。

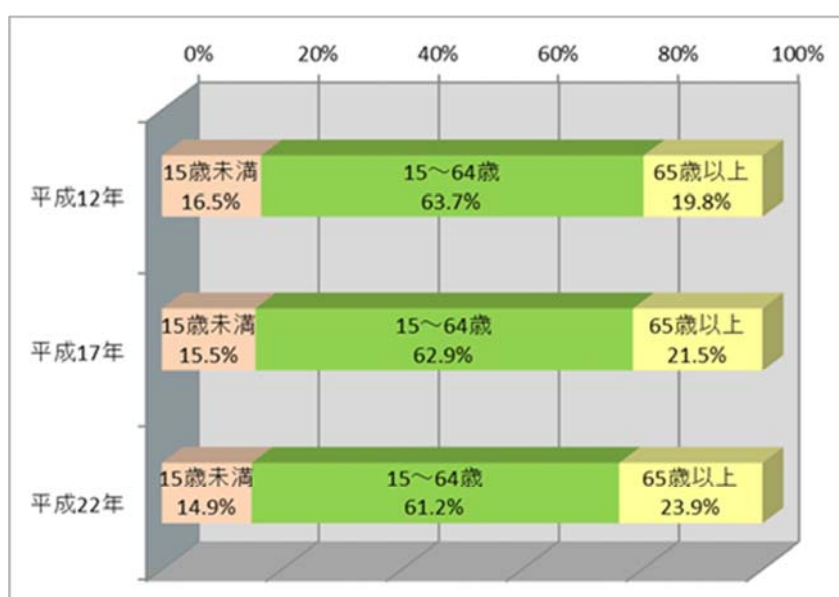


図 2-3 年齢層別人口の推移

④人口密度

長浜市の人口密度をみると、長浜市の中心市街地は 40～60 人/ha となっていますが、中心市街地の周辺は 10 人/ha 未満となっており、中心市街地に人が集中していることがうかがえます。

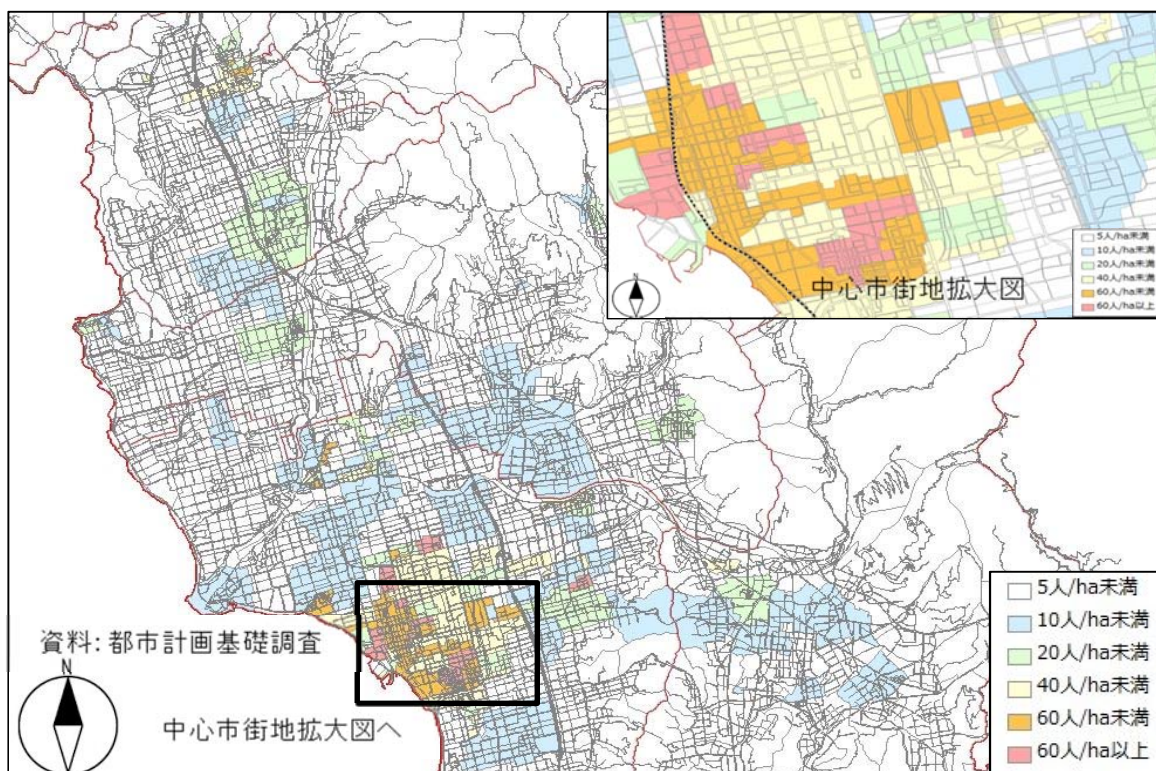


図 2-4 人口密度の状況

⑤DID 地区（人口集中地区）の偏移

長浜市の DID 地区（人口集中地区）をみると、前頁の「④人口密度」で人口が集中していた中心市街地に位置づけられています。

DID 地区の偏移をみると、北方面（神照地域）、東方面（宮司地域）へ広がりを見せています。

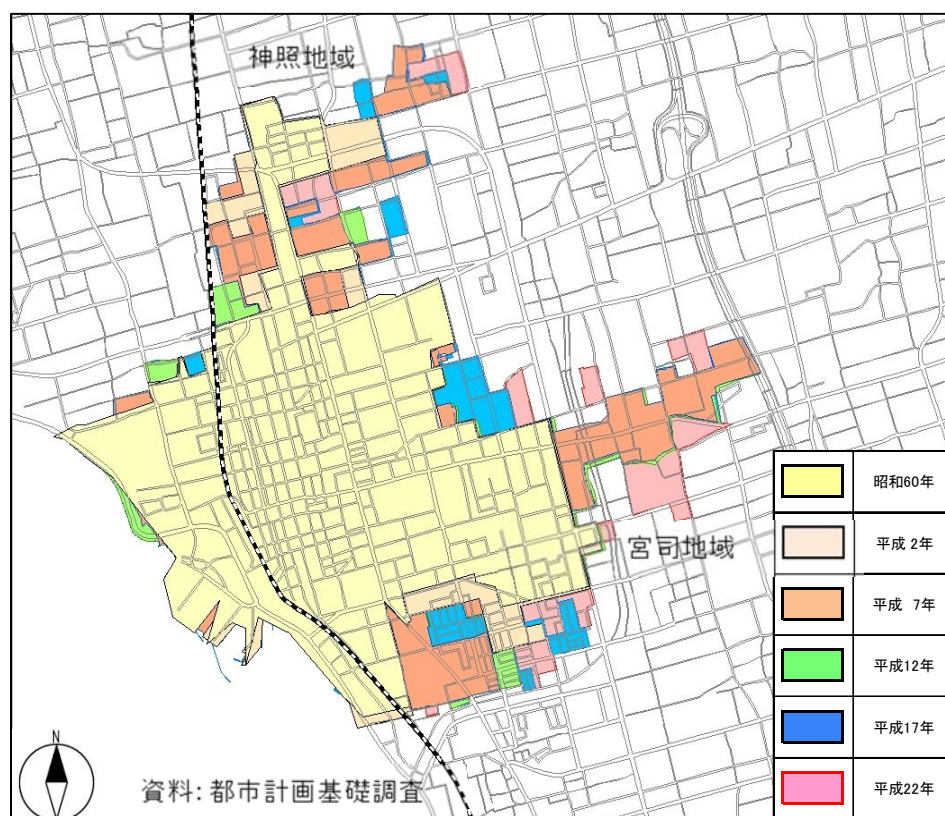


図 2-5 DID 地区の偏移

⑥通勤通学流動

長浜市の通勤通学流動をみると、近接する米原市、彦根市との流動が多くなっています。

流出・流入の状況をみると、米原市からの流入が多くなっていますが、全体としては他の市町への流出超過になっている状況です。

また、県境を越えた人の流れも大きくなっており、岐阜県、福井県、京都府、大阪府との結びつきが強くなっています。

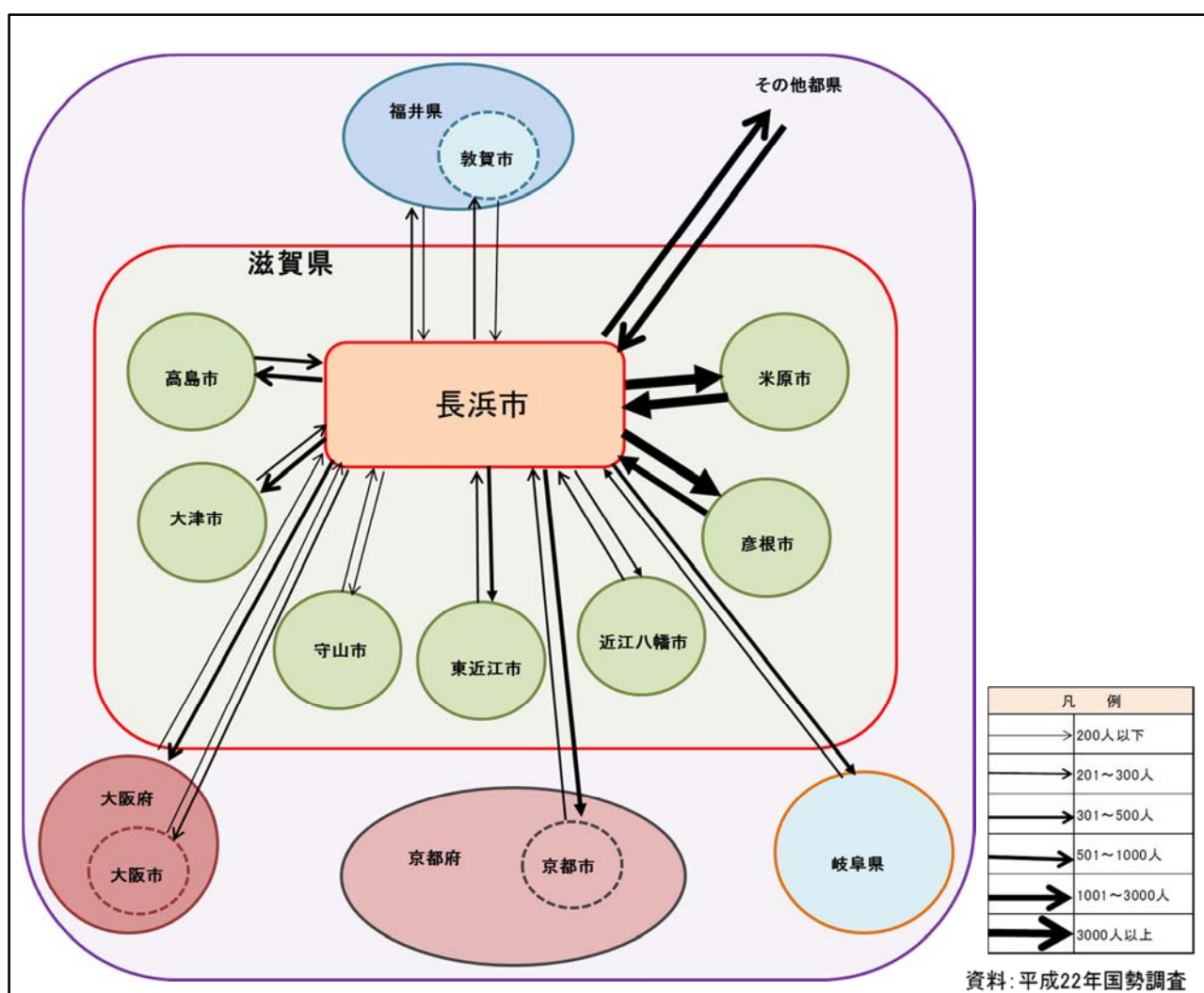


図 2-6 通勤通学の流動図

表 2-4 通勤通学流出流入状況

流出			流入			流出入の差異 (赤字は流出超過)		
単位:人			単位:人			単位:人		
計	就業者	通学者	計	就業者	通学者	計	就業者	通学者
大津市	706	524	182	213	170	43	-493	-139
彦根市	3,507	2,995	512	2,374	2,213	161	-1,133	-351
近江八幡市	254	181	73	228	200	28	-26	-45
草津市	251	165	86	109	86	23	-142	-63
守山市	96	71	25	106	86	20	10	-5
栗東市	67	65	2	74	62	12	7	10
甲賀市	31	23	8	34	22	12	3	4
野洲市	89	88	1	70	59	11	-19	10
湖南市	14	13	1	40	28	12	26	11
高島市	316	276	40	327	302	25	11	-15
東近江市	500	457	43	277	235	42	-223	-1
米原市	3,936	3,701	235	5,321	4,810	511	1,385	276
日野町	29	29	0	13	12	1	-16	1
竜王町	24	24	0	12	7	5	-12	5
愛荘町	89	87	2	97	84	13	8	11
豊郷町	46	46	0	45	40	5	-1	5
甲良町	71	71	0	67	60	7	-4	7
多賀町	123	123	0	92	84	8	-31	8
滋賀県(本市含む)計	61,438	56,346	5,092	60,788	55,967	4,821	-650	-271
京都市	739	312	427	150	110	40	-589	-387
その他京都府	63	18	45	66	38	28	3	-17
京都府 計	802	330	472	216	148	68	-586	-404
大阪市	202	164	38	40	27	13	-162	-25
その他大阪府	102	42	60	141	86	55	39	-5
大阪府 計	304	206	98	181	113	68	-123	-30
敦賀市	232	224	8	118	112	6	-114	-2
その他福井県	139	127	12	46	44	2	-93	-10
福井県 計	371	351	20	164	156	8	-207	-12
岐阜県	379	278	101	284	210	74	-95	-27
その他都道府県	745	515	230	536	401	135	-209	-95
滋賀県外 計	2,222	1,402	820	1,097	818	279	-1,125	-541

資料:平成22年国勢調査

(2) 産業動向

① 産業別就業者数

長浜市の産業別就業人口をみると、第1次産業は減少傾向、第2次産業は平成7年を境に減少傾向に、第3次産業は増加傾向にあります。

※平成18年、及び平成22年に長浜市では旧長浜市をはじめ1市8町の合併により、平成22年に関しては、統計の都合上全ての数値が増加となっています。

表 2-5 産業別就業者数の推移

単位：人							単位：%						
	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年		昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
第1次産業	3,133	2,339	2,164	1,644	1,373	3,984	第1次産業	8.7%	6.2%	5.5%	4.2%	3.4%	6.9%
農業	3,019	2,257	2,092	1,589	1,316	1,999	農業	8.4%	6.0%	5.3%	4.0%	3.3%	3.4%
林業	50	14	29	17	20	1,928	林業	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	3.3%
漁業	64	68	43	38	37	57	漁業	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
第2次産業	16,039	16,960	18,068	17,333	15,490	22,065	第2次産業	44.5%	45.1%	45.5%	44.1%	38.7%	38.1%
鉱業	13	13	11	7	11	17	鉱業	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
建設業	2,625	2,838	3,583	3,293	2,991	3,628	建設業	7.3%	7.5%	9.0%	8.4%	7.5%	6.3%
製造業	13,401	14,109	14,474	14,034	12,488	18,420	製造業	37.2%	37.5%	3.7%	35.7%	31.2%	31.8%
第3次産業	16,854	18,323	19,458	20,308	23,201	31,936	第3次産業	46.8%	48.7%	49.0%	51.7%	57.9%	55.1%
電気・ガス・熱供給・水道業	136	152	202	176	173	158	電気・ガス・熱供給・水道業	0.4%	0.4%	0.5%	0.4%	0.4%	0.3%
運輸・通信業	2,009	2,157	2,211	2,170	1,946	3,047	運輸・通信業	5.6%	5.7%	5.6%	5.5%	4.9%	5.3%
卸売・小売業・飲食店	6,714	6,859	7,352	7,357	7,726	8,020	卸売・小売業・飲食店	18.6%	18.2%	18.5%	18.7%	19.3%	13.8%
金融・保険業	785	837	883	794	720	989	金融・保険業	2.2%	2.2%	2.2%	2.0%	1.8%	1.7%
不動産業	77	110	120	118	2,074	408	不動産業	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%	5.2%	0.7%
サービス業	6,205	7,244	7,720	8,620	11,218	17,602	サービス業	17.2%	19.3%	19.5%	21.9%	28.0%	30.4%
公務(他に分類されないもの)	928	963	970	1,073	1,211	1,712	公務(他に分類されないもの)	2.6%	2.6%	2.4%	2.7%	3.0%	3.0%
合 計	36,026	37,622	39,690	39,285	40,064	57,985	合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※平成22年調査は伊香郡・東浅井郡との合併後の数値
資料：国勢調査(H22年)、都市計画マスタープラン資料編

※平成22年調査は伊香郡・東浅井郡との合併後の数値
資料：国勢調査(H22年)、都市計画マスタープラン資料編

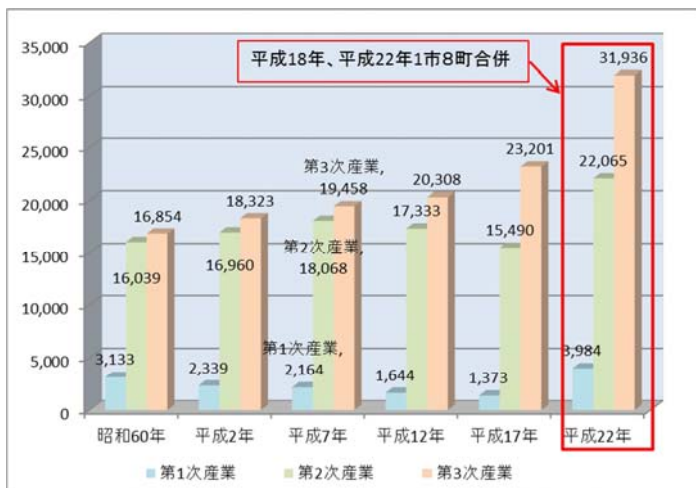


図 2-7 産業別就業者数の推移



図 2-8 産業別人口割合の推移

②農業の状況

長浜市の農業に従事している人口をみると、昭和60年以降、減少傾向となっています。平成22年は増加となっていますが、1市8町の合併によるものです。



図 2-9 農業従事者人口推移

③商業施設・工業団地立地状況

長浜市の商業施設、工業施設の立地状況をみると、長浜市中心市街地の国道8号沿道に大規模小売店舗、大規模集客施設が集中して立地しています。

中心市街地周辺の琵琶湖沿岸地域、北陸道長浜IC付近には工業団地が整備されています。

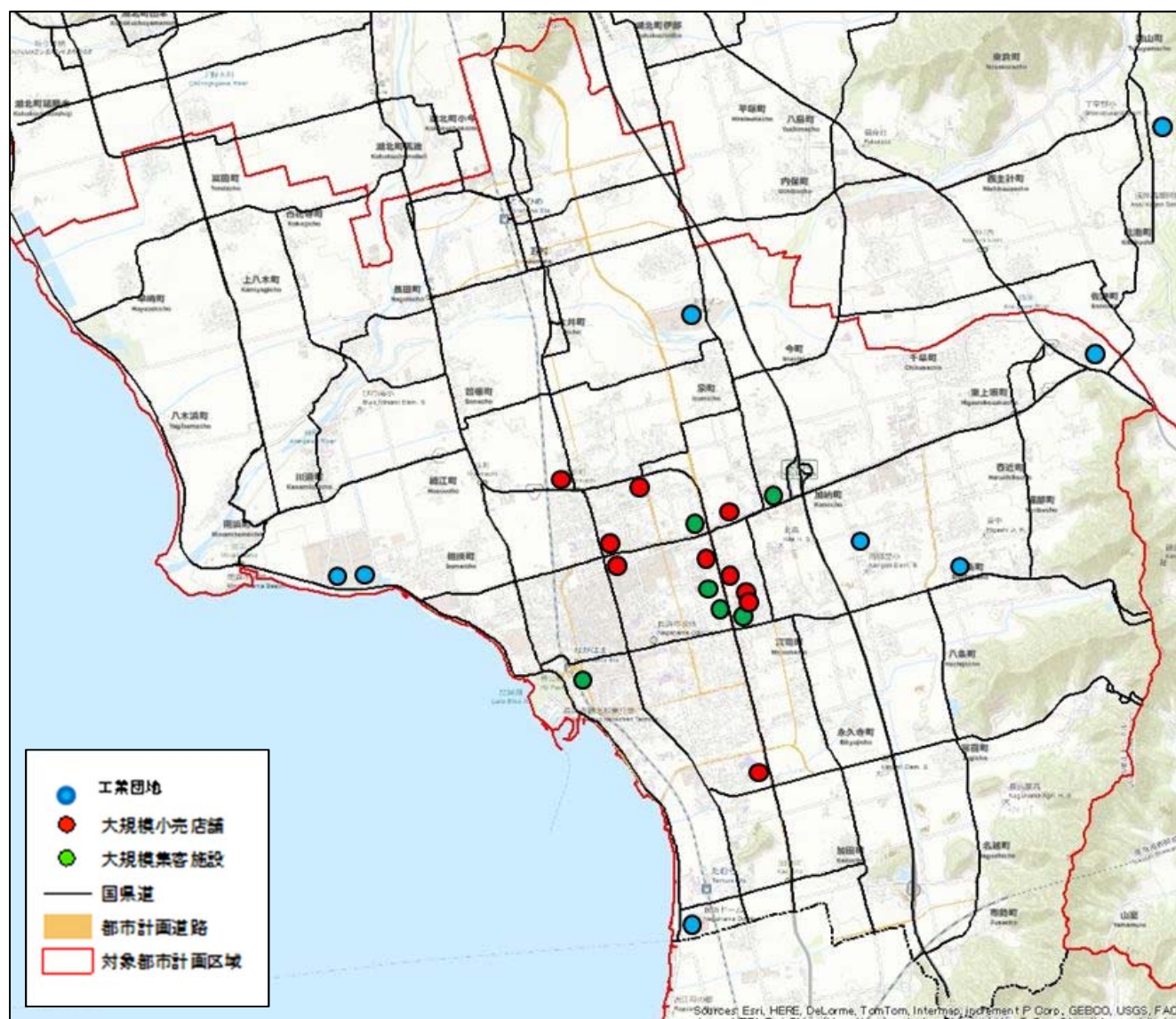


図 2-10 商業施設・工業団地立地状況

④商業の状況

長浜市の商業の状況をみると、事業所数は平成6年以降、旧長浜市を始め減少傾向となっています。

従業者数は増減を繰り返した変動となっていますが、近年は事業所と同様に減少傾向となっています。

年間商品販売額をみると、減少傾向が続いていましたが、近年は増加傾向となっています。



引用：都市計画マスタープラン

図 2-11 事業所の推移



引用：都市計画マスタープラン

図 2-12 従業者数の推移



引用：都市計画マスタープラン

図 2-13 商品販売額の推移

⑤工業の状況

長浜市の工業の状況をみると、事業所数は昭和60年以降減少傾向となっています。

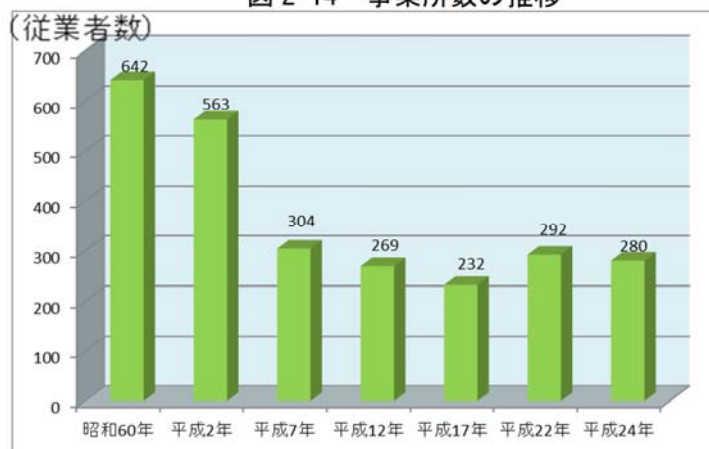
平成22年以降の事業所数が増加となっていますが、これは合併後の数値となっています。

事業所数の減少に合わせ、従業者数についても減少となっていますが、反面、工業出荷額は平成17年まで増加傾向であったものの直近では減少に転じています。



引用：都市計画マスタープラン

図 2-14 事業所数の推移



引用：都市計画マスタープラン

図 2-15 従業者数の推移



引用：都市計画マスタープラン

図 2-16 工業出荷額の推移

2-3 土地建物利用状況

土地利用状況をみると、中心市街地に建物が密集して立地しており、さらに、住宅用地、商業用地、工業用地が混在して立地している状況です。

建物立地の広がりやDID地区の偏移（2-6 頁参照）に合わせ、北は国道8号、東は北陸道方向に広がっています。

周辺の地域では、虎姫地域に住宅用地、商業用地、工業用地が混在して立地しているほかは点在している状況で空閑地が多くなっています。

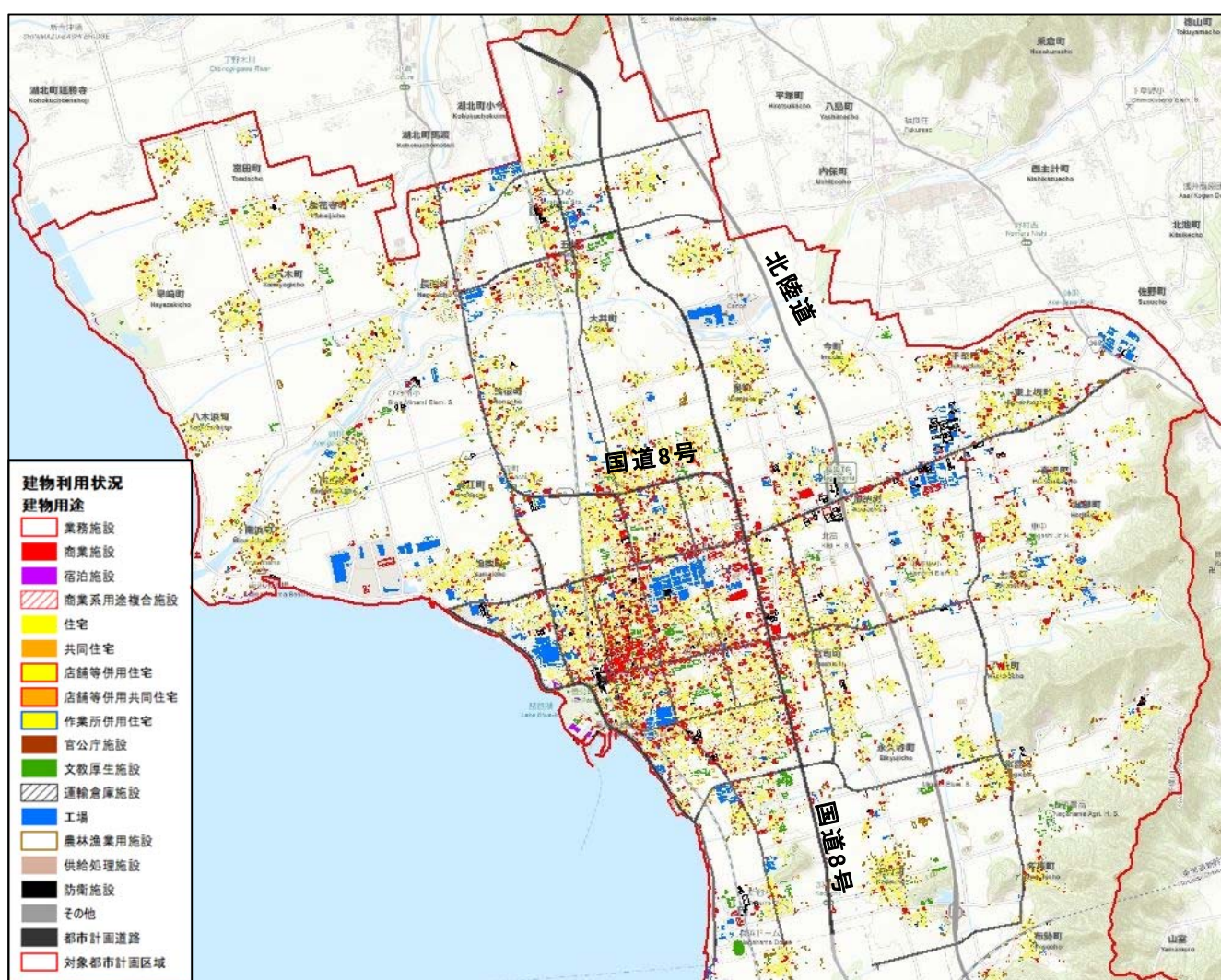


図 2-17 土地建物利用状況

2-4 災害(ハザードマップ)

(1) 長浜市の既往災害発生状況 (2008.7 豪雨)

中心市街地には小規模な河川が流れ込んでおり、洪水による浸水被害が懸念されています。

特に中心市街地では、2008年7月に1時間84ミリの豪雨に襲われ、市街地の河川が氾濫し、大規模な浸水被害が発生しました。

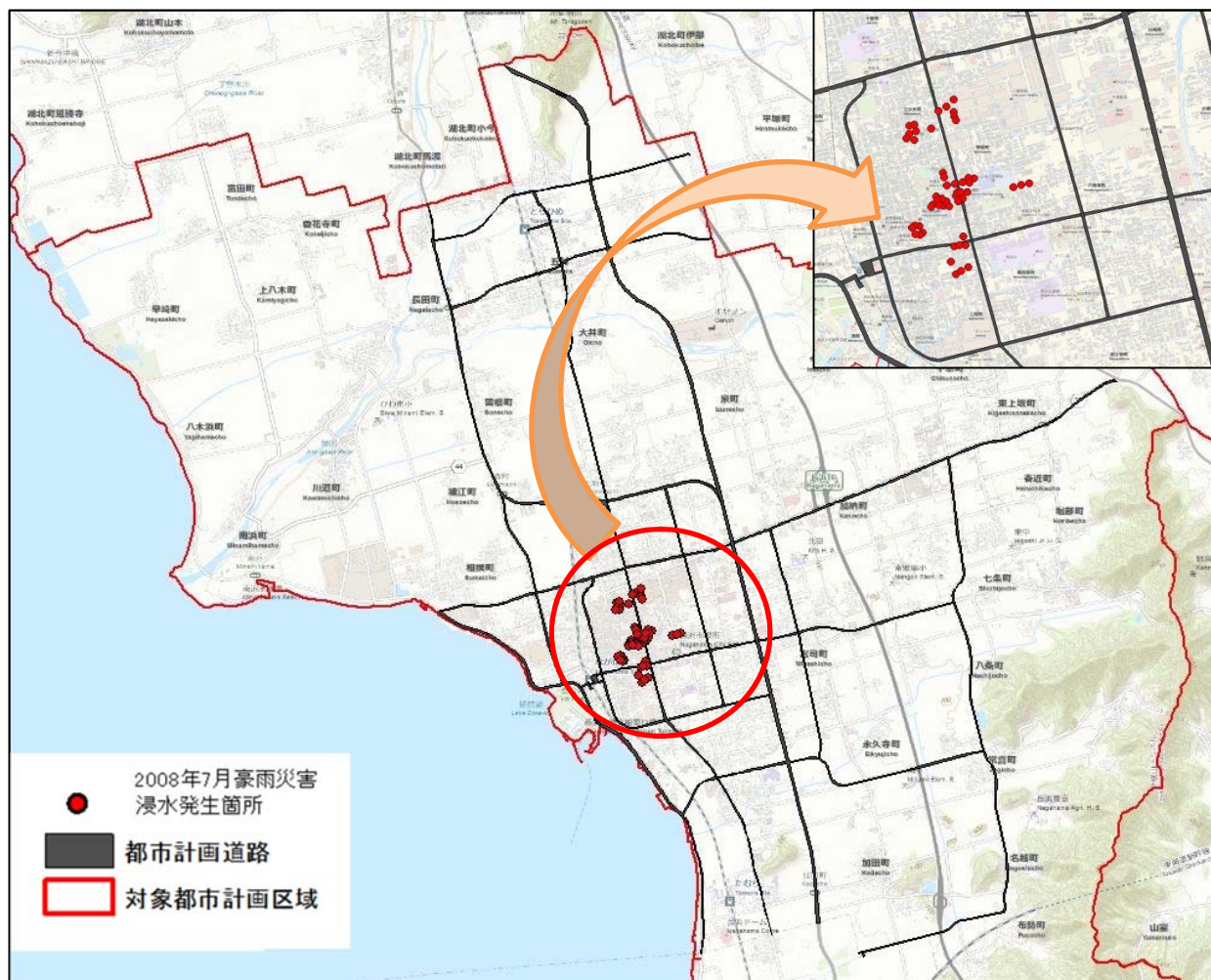


図 2-18 2008 年 7 月豪雨の災害(床下浸水など)発生状況



中心市街地を流れる小規模河川



2008 年 7 月豪雨 (駅前通り)

※引用：雨の強さと降り方(滋賀県)

(2) 水害（想定浸水区域）

長浜市の中域には、姉川及び高時川が流れており、この2つの河川が合流する流域では、氾濫時に2m以上の浸水が想定され、一部地域では5m以上の浸水想定となっています。また、中心市街地においても小規模河川の氾濫等により最大1mの浸水が想定されています。

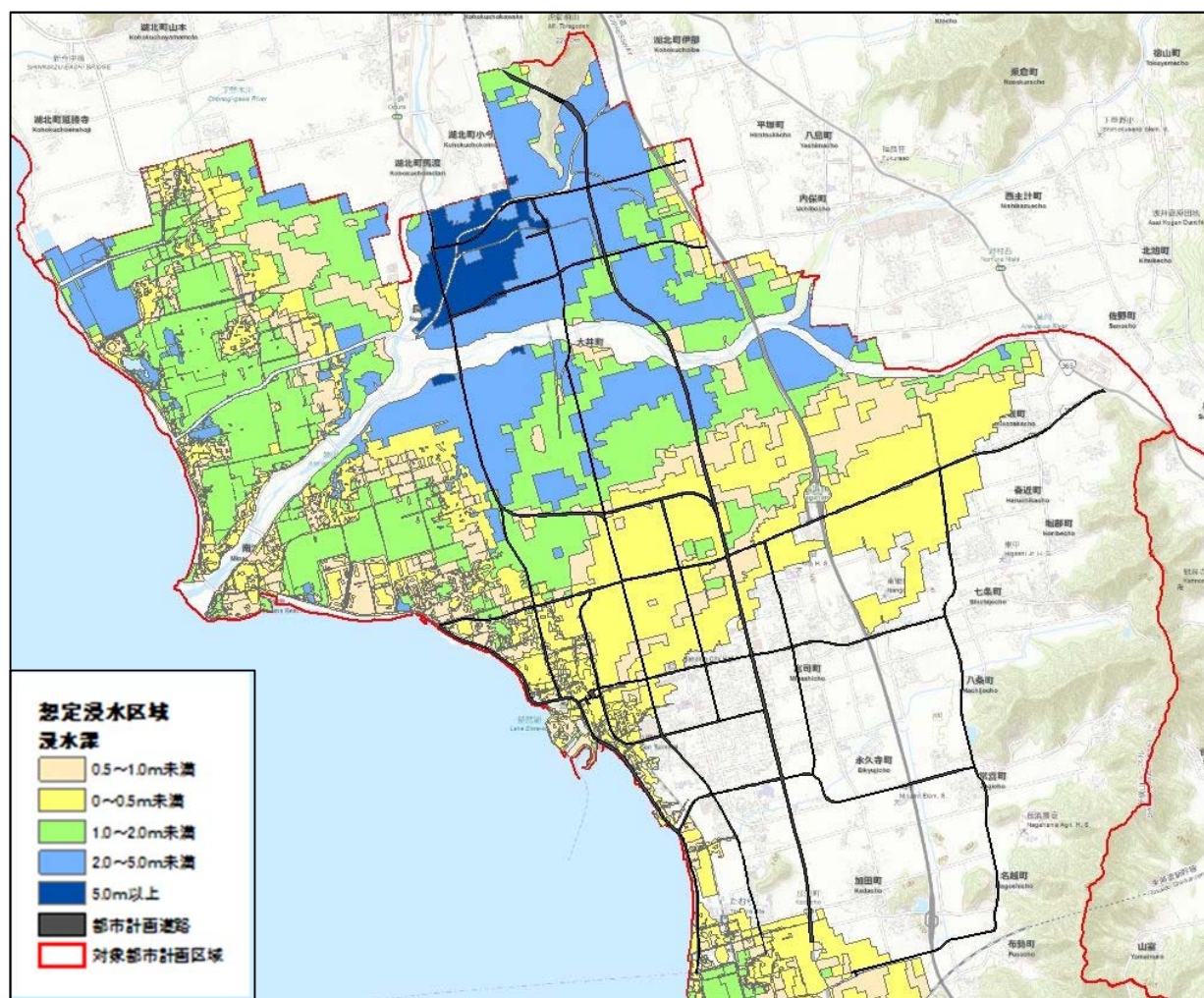


図 2-19 ハザードマップ（想定浸水区域）

(3) 防災拠点

長浜市で災害が発生した際の防災拠点を図 2-20 に示しました。

臨時ヘリポートを兼ねる広域避難場所が、彦根長浜都市計画区域内に6箇所設置され、それを補う形の学校施設などが指定避難所として各地域に設定されています。また、災害時の要援護者支援施設が中心市街地あるいは主な幹線周辺に多数指定されています。

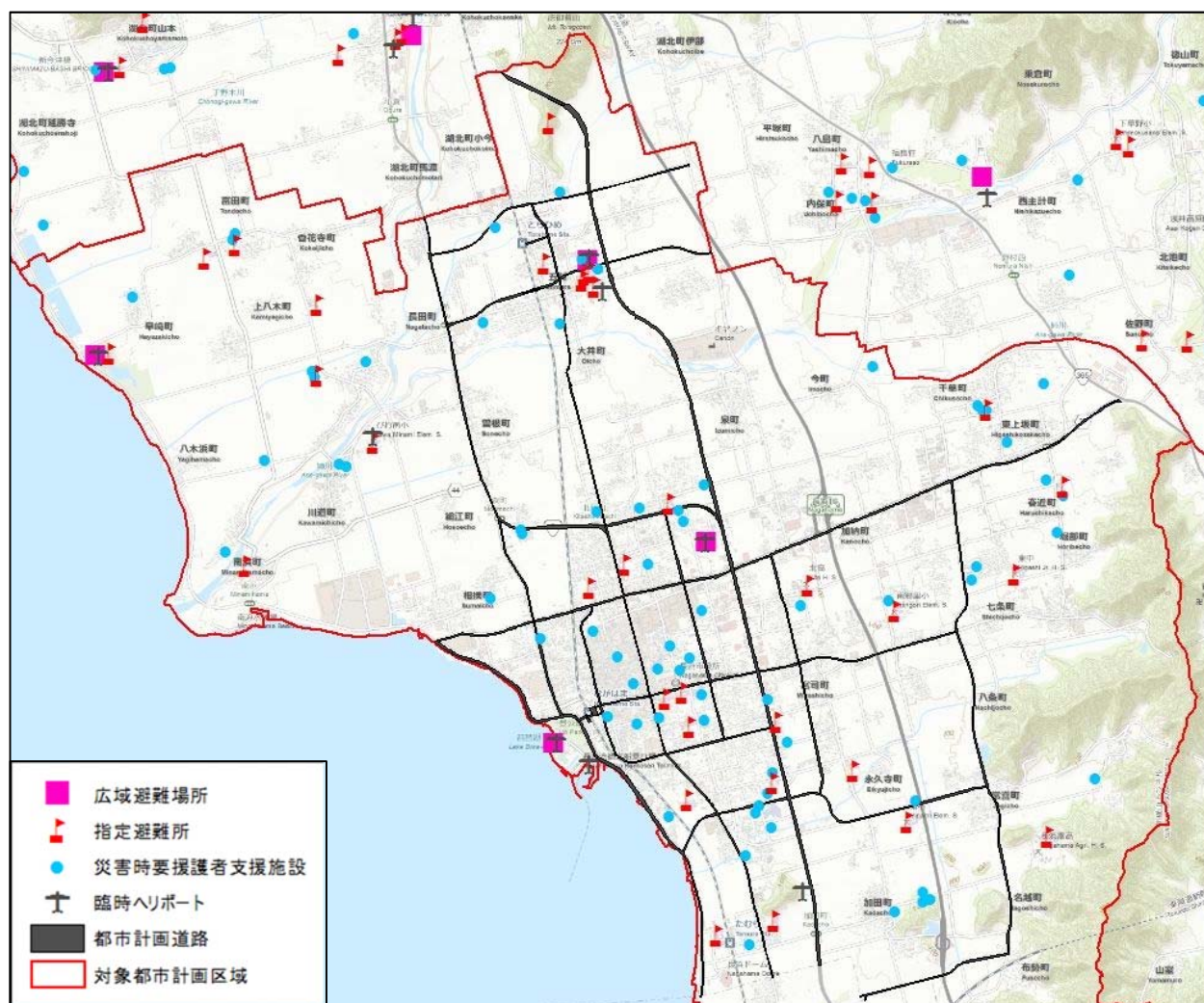


图 2-20 防灾拠点位置図

2-5 観光の状況

長浜市は観光のまちであり、中心市街地を中心に観光施設が立地しており、中でも「黒壁スクエア」は年間およそ 200 万人の観光客が訪れ、県内随一の観光地となっています。

長浜市への来訪客数は平成 20 年に一旦減少となっていましたが、以降は再び増加傾向となり、平成 23 年には大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の舞台になったことから飛躍的に増加しました。

平成 23 年に長浜市を訪れる観光客の目的をみると、黒壁スクエアを中心に周遊する都市型観光（都市観光は都市の有する歴史的、文化的遺産を活かした都市観光の創設、現代都市としての機能、娯楽、商業、サービス等を観光資源としての位置付け）が半数近くとなっており、次いで歴史関係（歴史、博物館など）となっています。

「平成 22 年滋賀県観光動態調査」によると、長浜市は前述した「黒壁スクエア」「長浜城歴史博物館」で調査が実施されており、両施設ともに自家用車やレンタカーを利用して訪れる観光客が 6 割以上を占めている状況となっています。

また「黒壁スクエア」は観光ツアーに組み込まれており、「黒壁スクエア」を訪れる約 2 割が観光・貸切バス利用となっています。



図 2-21 観光拠点位置図



図 2-22 観光来訪客数の推移



(豊公園(長浜城))

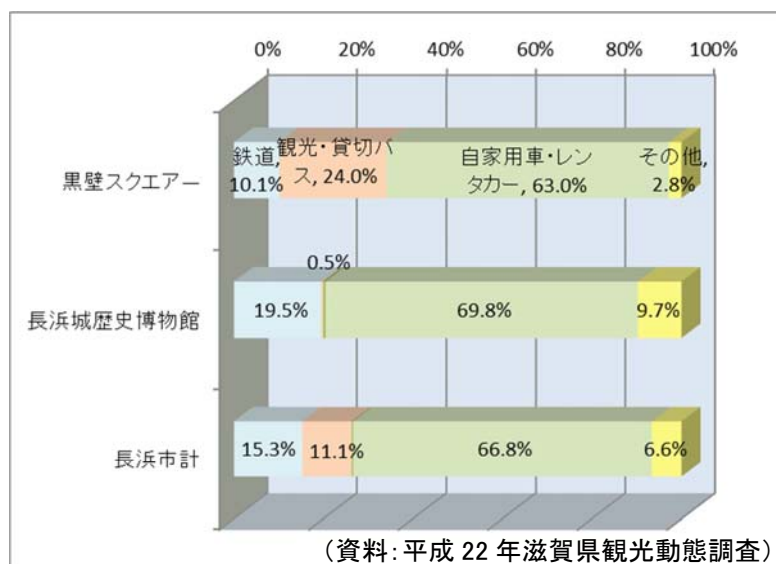


図 2-23 観光施設別入込交通手段の構成



(黒壁スクエア周辺)

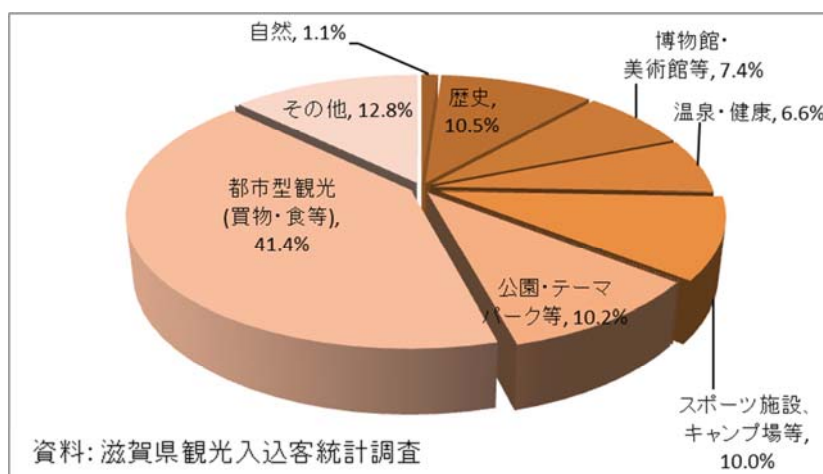


図 2-24 長浜市の観光動向 (平成 25 年)